

## 翻訳(6)

M. E. シュヴルール著  
色彩の同時対比の法則とその応用

De la Loi du Contraste Simultané des Couleurs,  
et de ses Applications,  
par M. E. Chevreul.  
Paris, 1839.

小林 光夫 電気通信大学名誉教授  
Mituo Kobayasi, Professor Emeritus,  
The University of Electro-communications.

第 I 部 いわば無限に細分可能な色材による有色物体  
の模倣

## 序言

255. プロイセン青(プルシアンブルー), 黄鉛(クロームイエロー), 辰砂(ヴァーミリオン)などの有色物体は, いわば無限に細分されて微細な粉末となり, そのままあるいは白色物体と混合され, アラビアゴムあるいは油に溶かされて絵の具になる。

「このような色材による有色物体の再現を, 絵画芸術と呼ぶ。」

256. 絵を描く二つの技法がある。その一つは, 立体物を, 布地, 木板, 金属板, 壁面などの, 通常は平面上に, 鑑賞者の目に本物と同じ印象を与えるように, できるだけ正確に再現する方法である。

257. 光を大切に扱うには, 対象物に直接注ぐ光と, それを模倣する画家の目に送り返される光の像の, すべての部分の色の輝きを意識しなければならない。一方, 対象物から光が別のところに反射したり, 出っ張った部分が多少とも日光を遮ったりして, 前者と同じだけの光を鑑賞者に返さず, 多かれ少なかれ色がくすみ黒く陰を作ること, 意識する必要がある。

そこで, 画家はしばしば, 白色光や有色光を鮮明に表したり, 黒を用いて光を和らげたりして, 平面の像であっても立体物と見まがうように再現する。明るい部分と暗い部分の配分によりこの効果を表す技法は, 「明暗法(キアロスкуро)<sup>1)</sup>」と呼ばれることが多い。

258. 有色物体の再現法に, 上述の技法に比べかなり単純な方法がある。すなわち, 対象物の個々の部分の輪郭を描き, 各部分を一樣に固有の色で塗る方法である。もちろん, 突出感や立体感はなく, 各部が一樣な色からなる, 物体の平面的な像である。この再現技法が「平塗り法<sup>2)</sup>」である。

## 第 1 編 明暗法による絵画

## 第 1 章 対象物の色

259. 一色だけからなる物体の色変化, たとえば, 青い布地, 赤い布地などが, 衣服や家具の飾り布としてはっきりとした陰を見せているときの色変化は, 決定不可能であろうか。あるいは, 与えられた状況の中で, 決定可能であろうか。これが, 私が解決しようとしている問題である。そこでまず, 色変化が観測される三つの状況を区別しておこう。

状況 1. 対象物に落ちた色光によって生じる色変化。

1 claire-obscur. 光と影, 陰影を, 明暗や濃淡のグラデーションで表現する絵画技法。キアロスкуро(chiaroscuro, イタリア語)と呼ばれることが多い。

2 teinte plate. 面を, 明暗や濃淡のない一樣な色で塗る絵画技法。一樣彩色法。

状況2. たとえば太陽の光とその拡散日光といった二つの異なる光が、同じ物体の異なる部分をそれぞれ照らしている場合。

状況3. 拡散日光によって生じる色変化。

260. 物事の理解を容易にするために、最初の二つの状況において、照明の当たっている面は平面であり、状況2の照明条件を除いては、すべての面の表面は均質で同一の条件を満たしているものとする。状況3においては、拡散日光の当たっている物体を見る観測者の位置を考慮する。すなわち、観測者の目に対し、面のすべての部分が等しい反射光を与えるようにはなっていない。

### 第1項 色光により生じる変化

261. この変化は、何らかの光源から放射された色光が有色面上に落ちた結果であると同時に、拡散日光に照らされた結果でもある。

262. 以下の観測では、有色の布地のある部分は、有色ガラスを通した太陽光にさらされ、それ以外の部分は、直射日光に照らされている。次のことに注意することが重要である。有色光の作用を受けた布地の部分は、拡散日光にさらされると同時に、有色ガラスを透過した光の影響がない場合に反射するであろう光を反射している。

#### 263. 1°「赤色光による変化」

赤色光が黒い布地に落ちると、布地は、直接太陽光に照らされた他の部分より、暗く紫みを帯びた黒に見える。

赤色光が白い布地に落ちると、布地は赤く見える。

赤色光が赤い布地に落ちると、同時に太陽光に照らされた部分に比べより赤く見える。

赤色光が橙色の布地に落ちると、同時に太陽光に照らされた部分より赤く見える。

赤色光が黄色の布地に落ちると、布地は橙色に見える。

赤色光が緑色の布地に落ちると、緑の色調に応じて異なる効果を生じる。その色調が暗ければ、赤みを帯びた黒に見え、明るければ、反射した赤みが残り、赤みを帯びた灰色を生じる。

赤色光が明るい青の布地に落ちると、布地は紫に見える。

赤色光が紫の布地に落ちると、布地は赤みを帯びた紫に見える。

#### 264. 2°「橙色光による変化」

橙色光が黒い布地に落ちると、布地はカルメリート色(淡褐色)あるいはマロン色(栗色)に見える。

橙色光が白い布地に落ちると、布地は橙色に見える。

橙色光が橙色の布地に落ちると、布地は、同時に太陽光に照らされた部分に比べ、非常に鮮やかで非常に強い橙色に見える。

橙色光が赤い布地に落ちると、布地は、火の色あるいはスカーレット(深紅)に見える。

橙色光が黄色の布地に落ちると、布地は橙みを帯びた黄に見える。

橙色光が緑色の布地に落ちると、布地は、それが明るければ黄緑に、暗ければ赤茶けた緑(*vert roux*)に見える。

橙色光が青い布地に落ちると、布地は、それが明るければ橙みを帯びた灰色に見え、暗ければ、同じ橙色光を黒い布地に当てたときの色に比べ、鮮やかさの少ない橙みのある灰色にみえる。

橙色光が暗い藍色の布地に落ちると、布地は橙みを帯びたマロン色に見える。

橙色光が紫色の布地に落ちると、布地は赤みを帯びたマロン色に見える。

#### 265. 3°「黄色光による変化」

黄色光が黒い布地に落ちると、布地はオリーブ色に近い黄に見える。

黄色光が白い布地に落ちると、布地は明るい黄に見える。

黄色光が黄色の布地に落ちると、布地は、太陽光で照らされた部分と比べ、橙みを帯びた黄に見える。

黄色光が赤い布地に落ちると、布地は橙色に見える。

黄色光が橙色の布地に落ちると、布地は、太陽に照らされた部分より、黄色く見える。

黄色光が緑色の布地に落ちると、布地は黄みを帯びた緑に見える。

黄色光が青い布地に落ちると、布地は、それが明るければ黄緑に、暗ければスレート色(青灰色)を帯びた緑(*verte ardoisée*)に見える。

黄色光が暗い藍色の布地に落ちると、布地は橙みを帯びた黄に見える。

黄色光が紫色の布地に落ちると、布地はマロン色に

近い黄に見える。

#### 266. 4°「緑色光による変化」

緑色光が黒い布地に落ちると、布地は暗い緑 (vert brun) に見える。

緑色光が白い布地に落ちると、布地は緑色に見える。

緑色光が緑色の布地に落ちると、布地は、より強いより鮮やかな緑に見える。

緑色光が赤い布地に落ちると、布地は褐色になる。

緑色光が橙色の布地に落ちると、布地は薄い黄になり、ほとんど緑みはない。

緑色光が黄色の布地に落ちると、布地は、鮮やかで緑みを帯びた黄になる。

緑色光が青い布地に落ちると、布地は、暗さのすくない緑色と同じように見える。

緑色光が暗い藍色の布地に落ちると、布地は緑色になる。

緑色光が紫色の布地に落ちると、布地は青みを帯びた暗い緑 (brun-vert bleuâtre) になる。

#### 267. 5°「青色光による変化」

青色光が黒い布地に落ちると、布地は、太陽光に照らされた部分より暗い、青みを帯びた黒になる。

青色光が白い布地に落ちると、布地は青色に見える。

青色光が青い布地に落ちると、布地は、太陽光に照らされた部分に比べ、より鮮やかな色を呈する。

青色光が赤い布地に落ちると、布地は紫色に見える。

青色光が橙色の布地に落ちるとき、ガラスが青色光とともに紫色光を通すならば、布地は非常に薄い紫みを帯びた褐色に見える。

青色光が黄色の布地に落ちると、布地は緑色に見える。もし光が、酸化コバルトで着色されたガラスを通過したならば、布地は紫みを帯びた褐色に見え、光の強さはほとんど感じられない。

青色光が緑色の布地に落ちると、布地は緑みを帯びた青色に見えるが、白い布地に青色光を落としたときより弱い。

青色光が暗い藍色の布地に落ちると、布地は、美しい暗い藍色に見える。

青色光が紫色の布地に落ちると、布地は、暗い紫みを帯びた青色に見える。

#### 268. 6°「紫色光により生じる変化」

紫色光が黒い布地に落ちると、布地は、わずかに紫

みを帯びた黒色になる。

紫色光が白い布地に落ちると、布地は紫色に見える。

紫色光が紫色の布地に落ちると、布地は、暗い紫色に見える。

紫色光が赤い布地に落ちると、布地は、赤みを帯びた赤紫に見える。

紫色光が橙色の布地に落ちると、布地は、薄い赤に見える。

紫色光が黄色の布地に落ちると、布地は、僅かに赤みを帯びた褐色に見える。

紫色光が緑色の布地に落ちると、布地は、薄い赤みを帯びた紫に見える。

紫色光が青い布地に落ちると、布地は、美しい青紫に見える。

紫色光が暗い藍色に落ちると、布地は、非常に暗い青紫に見える。

269. 上記の現象を正確に思い浮かべるには、各種のガラスに対する色光の透過しやすさ、色光が落ちる布地の色の暗さの程度、そして布地の色や色光の色のそれぞれが属する色相の種類を、考慮に入れなければならない。

### 第2項 強さの異なる二つの色光により生じる変化

270. この種の変化を次の二つに分ける。

1° 有色物体のある部分に太陽光が落ち、他の部分は拡散日光により照らされていることにより生じる変化。

2° 同じ物体の二つの部分が、拡散光により不均等に照らされているときに生じる変化。

#### 変化1 物体が部分ごとに太陽光および拡散日光に照らされている場合

271. この種の変化を良く観察するためには、太陽に向けたテーブルの上に、一辺が0.06m (=6cm)の四角い布切れABを広げる必要がある。図65(図版32)を参照。その中央に黒い鉄線ff'を置く。つぎに、この線に平行に、AおよびBそれぞれの中央に、厚さが0.003m (=0.3cm)の黒い鉄の薄板e e'とg g'を置く。端gは、長さ0.03m (=3cm)のh h'に垂直な平面に固定し、ff'を太陽光の方向に向けた面内に置いたときに、面h h'の影が布切れの半分Bの全体をぴったり覆うようにする。

Fig. 65.

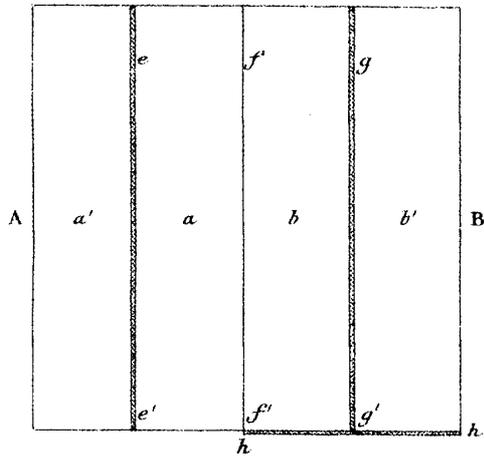


Fig. 66.

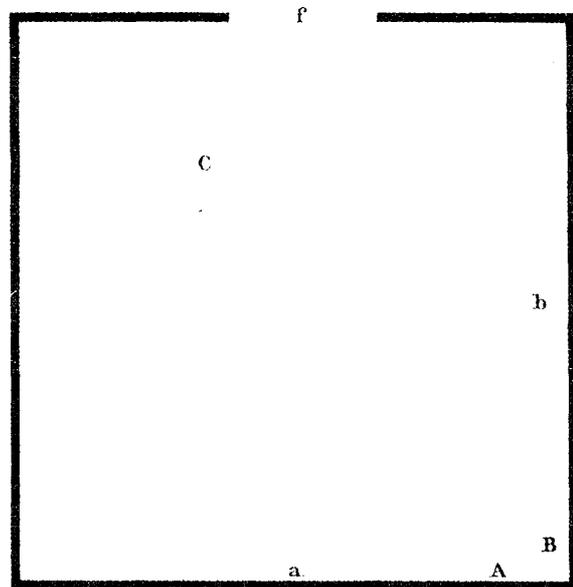


Fig. 67.

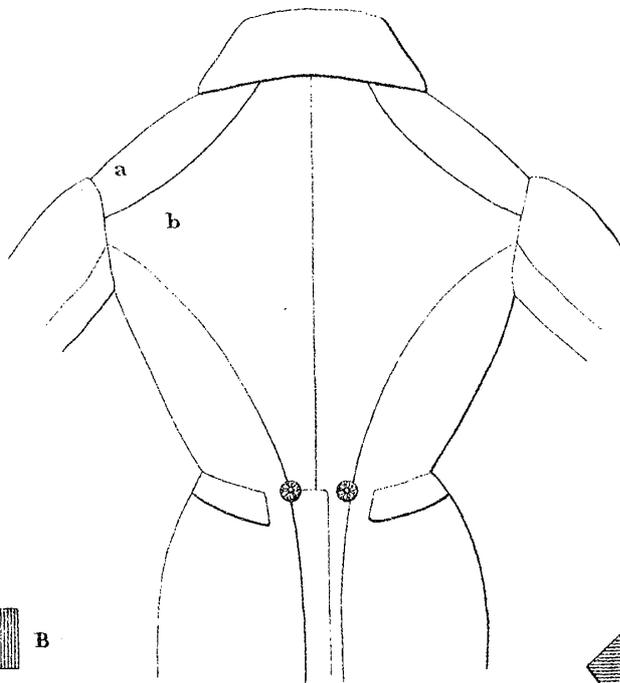


Fig. 68.

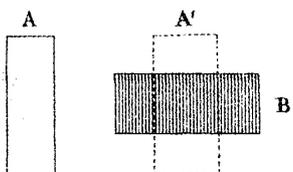
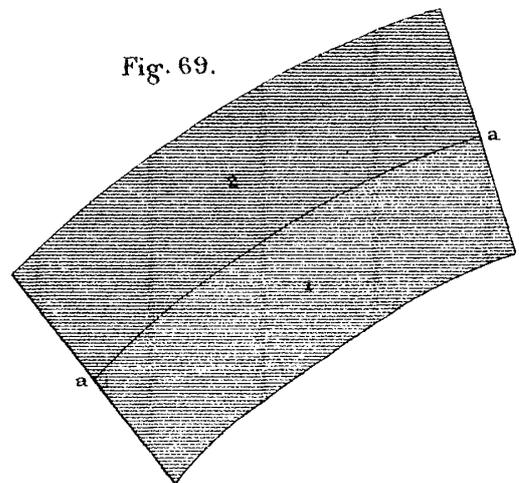


Fig. 69.



図版32. 上段左から図65, 図66. 中央は図67. 下段左から図68, 図69. (図68, 図69は次号で参照される.)

272. 1° 「赤い布の場合」, 照らされたAの部分は、影の部分Bより橙みが強く青みが少ない。aの部分はa'の部分より橙みが強く、bの部分はb'の部分より青みが強い、あるいはアマランサス色(紫みを帯びた赤色)に寄る。

273. 2° 「橙色の布の場合」, 照らされた部分は、影の部分より橙みが強く灰みが少ない。aの部分はa'の部分より暗く鮮やかであり、bの部分はb'部分よりくすんでいる。

274. 3° 「黄色の布の場合」, 照らされた部分は、影の部分より鮮やかであり、橙みが強い。aのほうがa'より橙みが強く、bはb'よりくすんでいる。

275. 4° 「緑色の布の場合」, 照らされた部分は、陰の部分より青みが少なく黄みが強い。aの部分はa'の部分より黄みの強い緑となり、bはb'より青みが強い。

276. 5° 「青い布の場合」, 照らされた部分は、影の部分より紫みが少なく緑みが強い。aの部分はa'の部分より緑みが強くbはb'より紫みが強く緑みは少ない。

277. 6° 「藍色の布の場合」, 照らされた部分は、影の部分より、赤みが強く青みが少ない。aの部分はa'の部分より赤みが強く、bの部分はb'の部分より暗く青みが強い。

278. 7° 「紫色の布の場合」, 照らされた部分は、影の部分より赤みが強く青みが少ない。aの部分はa'より赤みが強く、bはb'より青みが強い。

**変化2 同じ物体の隣接した部分を同時に見たとき、同一の拡散光により不均等に照らされており、各部分が単に色調の高さ(暗さ)だけでなく色の光学的組成(色相)も違う場合**

279. この変化は、前記の変化と本質的に違うわけではないが、これまで無視してきた配置の問題を考慮し、どのように観察すれば良いか、赤、橙、黄、緑、青、紫に対しどのような変化を生じるかを再度述べることは、有用だと思う。

図66(図版32)に示すように、一枚の色半紙をある

部屋の壁bの上に貼り、窓fから入る昼の拡散光を受けようにする。もう一枚の半紙を壁aの上に貼り、拡散光が直接これを照らすようにする。壁bには、壁や床や天井で反射した拡散光が間接的にしか届かないようにする。もちろん、反射した拡散光は白色光でなければならない。つぎに、観測者は、両方の紙が目に入るように、Cの位置に立つ。壁面aの上であり最も明るい場所をAで表し、壁面bの上であり最も暗い場所をBで表す。図中の記号はそれぞれ半紙の位置を示している。

### 効果

#### 「赤い半紙」

半紙Bは半紙Aに比べ、より暗くアマランサス色寄りの赤または黄みの少ない赤を示す。

#### 「橙色の半紙」

半紙Bは半紙Aに比べ、より暗く赤みの多い橙、あるいは黄みの少ない橙を示す。

#### 「黄色の半紙」

半紙Bは半紙Aに比べ、よりくすんだ緑みの多い黄を示す。

#### 「緑色の半紙」

半紙Bは半紙Aに比べ、より暗く黄みの少ない緑、あるいは青みの多い緑を示す。

#### 「青色の半紙」

半紙Bは半紙Aに比べ、より暗いが、より紫みを帯びているとは言えない青、あるいは緑みの少ない青を示す。

#### 「紫色の半紙」

半紙Bは半紙Aに比べ、より暗く赤みの少ない、あるいは青みの多い紫を示す。

280. この観察の結果、同じ物体の色が、直接の太陽光、直接の拡散光、そして反射した拡散光に応じて、単に色の強さあるいは色調の変化だけでなく、ニュアンスの変化(微少な色相変化)を示した。物体の色を定義するときにはいつでも、この結果を決して忘れてはならない。

### 第3項 観測者の目に対しすべての面が同じ位置にはない一つの表面から、反射された拡散屋光により生じる色の变化

281. 遠くの物体が視覚器官に感受されるのは、それが放射、または反射、または透過した光が網膜に作用した場合に限る。

反射の法則に基づいて、(この法則は、目に入った光が屈折する場合を扱うためには役立つが、)凹凸のある物体の表面が反射する光について述べる。与えられた位置にいる観測者の目には、凹凸のある表面の各部は、反射する光の強さにより、たいそう異なって照らされているように見える。目には、その表面の各部が一つの平面の均質な部分であり、異なる強さの光によって照らされている場合と同じに見える。

しかしながら、次のような違いがあり得る。物体表面の部分が凹んだり、とくに引っ張ったり、隣接する非常に多くの部分に対しわずかではあるが変化しているように見えるならば、二つの均質な平面が強さの異なる拡散光により照らされているように見える効果は、一般に次第に弱まる。球体は一つの注目すべき例である。光は凸面で拡散し、与えられた位置から球を見る観測者の目に入る。<sup>3</sup>

282. 私は、白色光に照らされた部分から、照らされているようには見えない部分までの、このようなグラデーションは取り扱わない。私は、基本的な変化だけを検討し、できる限り分かりやすい場合を例として取り上げる。これらの変化は、次の四つに帰着される。

#### 変化1 物体の有色面が反射しうる最大の白色光による変化

283. 他の点はすべて同じとして、有色物体の表面は磨かれており、白色光や色光を反射するものとする。赤い棒状の(封蝋用の)蝋を折ると、露わになった部分に、円柱の滑らかな表面に比べよりくすんだ暗さの少ない色の面が見える。一方、適切におかれた同じ円柱表面を見ると、円柱の軸に平行な白い帯が認められる。これは、大量の無色の光によって生じているが、同じ場所から反射する赤い光は、見る目には感じられない。有色物体から送り返される白色光は十分に強く、白い帯のどの部分においても物体固有の色を感じられなくなる。

#### 変化2 色光に比例して目に送り返される光により有色面の部分に生じる変化であるが、その光が、様々に照明され観測者に対し種々の位置にある他の部分の白色光より少ない場合

284. 有色物体の表面のある部分を見るとき、それが多少とも磨かれているか、磨かれてない場合は多少とも滑らかであれば、物体は色光に比例した白色光を目に送るが、それは、様々に照明され観測者に対し様々な位置にある他の部分より少ない。前者の部分の色は、多くの場合、後者より強い色調であるように思える。例を挙げる。

(例1) 円柱状の赤い蝋は、前述の白い帯から目に届く白色光が少ないだけに、いっそう暗い赤い色を呈する。円柱の中央に見える白い帯の位置の、最も明るい部分は色が着いて見え、スカーレットに近い赤色を反射し、一方最も暗い部分は、アマランサス色に近い赤を反射する。

(例2) 深さが十分ある金の花瓶を覗き込むと、金もはや外面のような黄色には見えず、赤みがかった橙色に見える。なぜなら、前者では後者より色光における白色光が少ないからである。これと同じ理由で、金の装飾の凹の部分は、凸の部分に比べより赤く見える。

(例3) 螺旋状の畝髪をもつ絹の撚り房、または毛の撚り房が、目の前に垂直に垂れているとする。入射光に対し反対の方向から見ると、表面の他の部分に比べ、一つの色が極めて強く感じられる。

(例4) 艶のある飾り布の髪を、ちょうど良い位置から見ると、同様の変化が見られる。その効果は、黄色や空色の絹地では顕著である。というのは、輝きの少ない暗い色の布では、変化が顕著でないことが、誰でも容易に分かるからである。

(例5) 布地の横糸と縦糸が同じ色調、同じ色相であるにもかかわらず、同じ色相の二つの色調に見えたり、場合によっては近隣の色相で二つの色調に見えたりする布地がある。このように見える理由はとても単純である。すなわち、模様を作る糸が、平行に織られているにもかかわらず、布の下地を作る糸の方向と異なるからである。したがって、布地に対する観測者の位置がどこであろうと、模様の糸は常に、色光および白色光を、下地の糸から反射する光とは異なる割合で、反射するのである。そして、観測者の位置に応じて、模様は下地に比べ、あるときはより明るく、あるときは

3 (原注) 理工科学校(l'ecole polytechnique)の最初のノート。

より暗く見えるであろう。

### 変化3 有色または無色の物体表面の部分が、観測者の目に光を送り返さない場合、あるいはほとんど送り返さない場合の変化

285. 観測者の視野内にある物体の表面の部分が光を目に届けない、あるいはほとんど届けないとき、たとえば、その部分が直接照らされない場合や、反射した光がちょうど良い位置にない場合、その部分は黒く、あるいは多少とも暗く見える。

### 変化4 同時対比が原因で、有色物体の一部に広がる補色により生じる変化

286. 一般に同時対比の法則の自然な結論に従えば、そしてとくに灰地や黒地の上の色の変化に従えば、人が見る物体固有の色に隣接する部分は、多少とも陰の色を呈するので、物体固有の色の補色に見えるに違いない。しかし、そのような結果が観察されるためには、影の部分が目に送る光は白色光でなければならず、物体が自然に反射する色光ではない、あるいはほとんどそれではない。

#### (a) 単色の布地における変化

287. 目を、部屋の奥から日が入る窓の方に向け、たとえば、窓の外にある青い新品の、藍あるいはプロイセン青(プルシャンプルー)で染められた菱形模様付きの服を、窓を通して見るとき(図67)、目は服のbの部分、aの部分とは違う風に見るであろう。その理由は、織物の毛足がaとbの反対方向に向いており、aは美しい青色に見え、一方bは、青い部分の対比の影響で、橙みを帯びた灰色になるであろう。なぜなら、bの部分は、ほんのわずかの白色光だけを目に送り、青い光はないかほとんどないからである。

使い古すと、毛足は次第に規則正しい位置を失い、織物は艶がなくなりくすんで、色光はあらゆる点から不規則に反射する。効果がすべて破壊されることがないならば、色光は少なくともかなり弱められる。

もし服が、暗い緑色であれば、影の部分は赤みを帯びて見える。もし服が、1835年の流行のマロン紫(violet marron)であれば、影の部分は黄みを帯びて見える。

288. 補色は、暗くくすんだ色の織物の上にしか、広がらない。赤、スカーレット、橙、黄、明るい青の礼服は、補色を表さない。なぜなら、反射される基本

的な色が、あまりに多すぎるからである。変化は、ある部分が、拡散光で照らされている他の部分に比べ、非常に明るい場合に限って起こる。

289. おそらく余計なことかも知れないが、次のことを指摘しておく。毛足の方向が同じで襲のある織物では、毛足の位置を変化させた場合の、青、濃い緑、ならびにマロン紫の服が呈する変化を定めることができる。

290. さらに、変化4が感じられると思われる別の状況がある。青色やバラ色など明るい色調で同じ色相に属する色の、ひと組の絹糸や毛糸の糸巻きが架台の上に置かれているとき、同じ糸巻きの半分は、他の半分の糸とは反対の感じに見える。すなわち、目に光を送らない糸巻きの半分は、色光を送る半分の補色の色に見える。

#### (b) 同じ色階の、暗い色調および明るい色調を呈する布地における変化

291. 適切に選んだ同一色階の暗い色調の色と明るい色調の色を並置すると、明るい色調の色はそれが属する色階の補色を呈する。この変化は、しばしばインド更紗の(捺染加工の)芸術作品が示すある現象の説明において非常に重要であるが、多くの例を引用することはできない。

292. 有色の布地に白く見せるつもりで描いた模様が、用いたプロセスの欠陥で、わずかに地の色に染まったとき、模様部分は地の色の補色に見える。したがって、模様は、クロームイエローの地の上では紫みを帯び、クロームオレンジの地の上では青みを帯び、緑色の地の上ではバラ色に見える、等々。錯覚を消し、模様のほんとうの色を知るには、模様だけが見えるように切り取った紙で地を覆うだけで十分である。薄い色調の色の上に暗い色調の色を載せた場合の影響は、錯覚が中和されるだけでなく、布地の上でそれが占める位置が、補色に見える。

293. 上記の観測から演繹すれば、有色の布地上のどのような色の模様も、大多数の目にとって、地色の補色ではなく白く見せることが出来る。それを見る目に対し、対比現象の理解が、有色の布の製造技術の欠陥を正すことになるであろう。

294. 私は、1836年にゴブランで行った対比に関する講義で、次の観測実験をした。ラファエロ<sup>4</sup>の「聖家族<sup>5</sup>」を描いたタペストリーの聖母マリアの青い服の明るい部分に、(その部分を)切り抜いた紙を置くと、それは明るい青に見えた。しかし、(切り抜いた紙を置く前に、)より暗い青に囲まれていたときは、僅かに橙みを帯びたように見えた。

295. 要約すると、第四の変化は、次の場合いつでも観測される。

1° 単色で暗く鮮やかさのない物体の、一部は目に固有色を送るが、他の部分はほとんど無色の弱い光しか送らない場合；

2° 同じ色相の二つの色調をもつ布が、ちょうど良い具合に離れている場合。

296. 次のことは苦勞なく思いつく。色変化が、黄やスカレットなどの鮮やかで単色の物体には現れないのは、物体の表面の一部は、目に最小限の光しか送らないにもかかわらず、常に物体固有の色を十分送り、照らされている部分の色光が広げようとする補色を中和するからである。私の思い違いでなければ、その効果は、暗い部分の色光を弱める傾向をもつように見えた。

297. 本章で、白い模様のある有色布の変化を扱うつもりはなかったけれども、今後の展開に関わるので、ここに述べざるをえない。明るい空色の絹地に白い花の模様を見るとき、その糸が地の青い横糸に対し逆方向にあるならば、模様が反射する白色光を受ける最善の位置では、模様は白く見える。しかし、逆の位置では、花は必ず橙みを帯びて見える。また、多量の白色光が反射しているが、地色の補色の広がりやを中和するほど十分には鮮やかでない。

298. 絵画では、二つの遠近法、「透視遠近<sup>6</sup>」と「空気遠近法<sup>7</sup>」を区別する。

透視遠近法は、物体およびその様々な部分の輪郭線を、物体を見る目の位置と大きさを考慮して、通常平面である表面上に再現する技法である。

空気遠近法は、彩色による模倣により、異なる平面上に置かれた物体や、特別な場合には、一つの平面上の個々の物体の中に見える、光と影を配分する技法である。

明らかに空気遠近法は、私がこれまで調べてきた色の基本的な変化の観測と再現を含んでいる。また、絵画における「真の完全な彩色法」は、可能な限りの忠実な色再現なくしては存在しない。

## 第2章 画家とは異なる視点から見た有色物体と、画家によるその模倣との差異

299. 有色物体の絵画による最も完全な模倣と、実物の間には大きな違いがあり、この違いは十分一般的には評価されていないので、少しの間ここにとどまる必要がある。模倣は、対象物体に関して、輪郭や、光と影の配分や、その結果生じる色の変化において、画家の居る位置でしか、本物に見えない。なぜなら、その位置を外れると、すべてのものは、観測者にとって多かれ少なかれ変わるにもかかわらず、模倣の中には、人がいる位置に無関係に、光、影、輪郭線、そして色変化を見るからである。

たとえば、観測者が、部屋の中で窓の方を向き、観測者と窓の間に位置する新しい青い礼服を着た人物の背中(図67)を見ている場合、服のaの部分は青く、bの部分は橙みを帯びた灰である。観測者がこの人物の横顔を見ようとして(窓の方に)進み、aとbの部分を見ると、位置を変える前とは違うように見える。<sup>8</sup> 画家が、観測者が最初にいた位置で、服を描いたとすると、aの部分は美しい青で、bの部分は(おそらく)橙みを帯びた灰で描いたのである。

さて、観測者が、人物の横顔を見た第二の位置にいた場所で服の模倣を見るならば、その位置では服はもはやそのような変化は表していないけれども、aの部分は青色に、bの部分は橙みを帯びた灰色に見えるで

4 ラファエロ・サンツィオ(Raffaello Sanzio, 1483-1520)。フランス語ではRaphaëlと綴る。盛期ルネッサンスのイタリアの画家、建築家。レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロより少し後に活躍した。

5 ラファエロは、「カニジャーニの聖家族」や「子羊の聖家族」など、聖家族を何点か書いている。いずれも、美しい色彩と端正な構図を特徴とする。ここでは、聖母がまとっている青いローブの色について述べている。光のあたっているところは明るい青、影のところは暗い青で描かれている。

6 perspective linéaire。一般の透視図で使われる遠近法。近くの方は大きく、遠くの方は小さく描く。

7 perspective aérienne。近くの方をくっきりと、遠くの方を薄くぼかして描くことにより、遠近感を表現する技法。

8 (原注)観測者がaの部分に橙みを帯びた灰に、bの部分に美しい青に見る位置が存在する。

あろう。

そもそも私は、要は非常に簡単なことを表現するのに、たくさんのことを強調して言っている。

実際、光、影、色変化、そしてそれらの部分の輪郭が、絵画の中に平面上に同じ関係を保存しているので、画家が彼の対象物を再現するためにいた場所とは、まったく異なった場所から、それを見たにもかかわらず、その模倣は同じ印象を感じさせる。

300. またこのような理由で、画布の上に絵を描いている画家を見た人は、絵に対する最新の位置がどこであろうと、同じ絵の中に観測者を見ているようである。

## 第2編 平塗り法による絵画

### 単一章 平塗り法による絵画

301. 平塗り法の絵画では、色は微妙に変化したりぼかされたりしない。また、画家が模倣しようとしている物体の近隣の物体から生じる色光によって、変化を受けたりしない。

この画法の絵画作品では、対象物の表現は、透視遠近法を守り、最も近い平面に鮮やかな色を用い、最も遠い平面に薄く灰みを帯びた色を用いることに限定される。似通った色の選択が、同時対比の法則に従ってなされるならば、明暗技法を用いて描くよりも、色の効果は大きい。それゆえ、中国に由来する平塗り法を用いた絵画の色彩美に感嘆するとき、我々の技法と正確に比較するために、人が従った体系を尊重しなければならない。そうでないと、異なる体系に従って作成された絵画を比較する場合に、間違っただけの判断をしてしまうかもしれない。

302. 平塗り法の絵画が明暗法の絵画より優れていることは明白だというならば、それは、私見によれば、平塗り法がヨーロッパに伝わった時に、それをもっぱら実践するために明暗法を捨てなければならないと信じてしまった過ちであろう。なぜなら、絵画が単なるアクセサリーであり本質的なものでない場合には、平塗り法の絵画は、あらゆる点で明暗法の絵画より好まれたからである。

303. 平塗り法の絵画の本質的な美点は、間違いなく色彩とはっきり描かれた輪郭線にある。輪郭線は、色彩の感覚をより強くより好ましく与えるのに貢献し

ている。輪郭線は、たとえ模倣が全く忠実な像でないにしても、色で覆われた形態を囲み、魅力的な物体を心に思い起こさせる。

304. 平塗り法の絵画は、以下に述べる点に関し、優位に用いられることが分かる。

1° 絵の仕上げの入念さが不必要なくらい遠くの距離にある物体を表現しようとするとき。

2° 絵が、あるものを装飾するアクセサリーであり、お金をかけて入念な仕上げをする必要がないとき、たとえば、ついたてを飾る絵、作品を置く台、(トランプ)カードの箱、等々。この場合、好ましい対象物は、色の美しさや形の単純さが目立ち、目には生き生きとした色が訴え、輪郭線が容易に辿れるものである。たとえば、鳥や、虫や、花などである。

(次号へ続く)